



結核は過去の病気ではありません！ ～結核を減らすために～

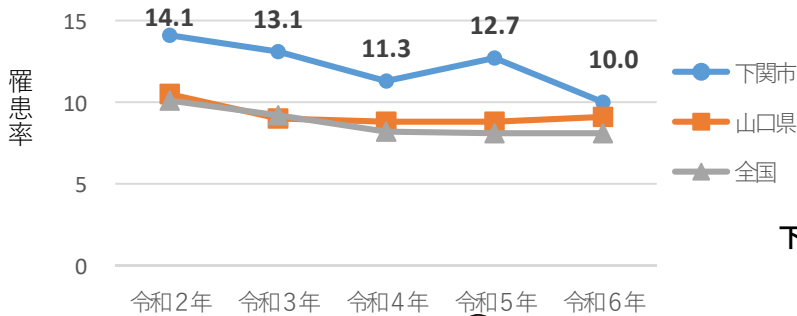
結核の現状

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。

結核は今でも新しい患者が発生している重大な感染症です。

山口県内では年間100人以上、下関市内では年間約20～30人前後の新規結核患者が発生しています。

結核罹患率の年次推移

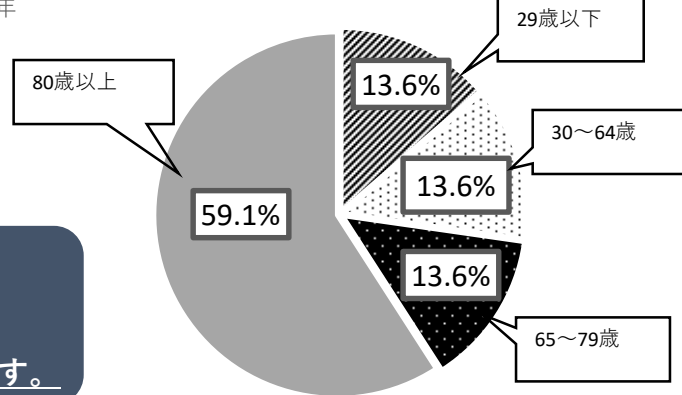


下関市で新たに結核と診断された方の割合（罹患率）は全国や山口県と比較すると高い状況です。

(罹患率 = 新登録結核患者数 ÷ 人口 × 10万)

下関市で結核と診断された患者の

年齢別割合(令和7年)



～80歳以上に多い結核！～

下関市で令和7年に発生した結核患者は80歳以上の高齢者の割合が高く、患者の約6割を占めています。

結核の早期発見には定期的な胸部X線検査が重要です。
特に65歳以上の方は感染症法により、年1回は胸部X線検査を受ける必要があります。

～外国出生者の結核～

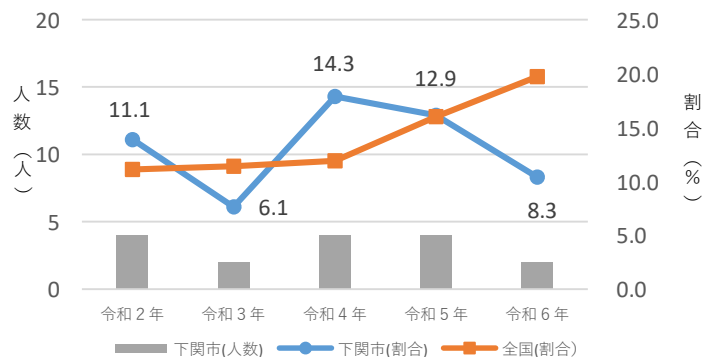


新登録結核患者のうち外国出生者の割合は全国的に増加しており、下関市では毎年約1割ほどを占めています。

特に、20～30歳代の新登録結核患者のうち外国出生者の割合が高い状況です。

罹患率の高い国の出生者が日本滞在中に発症するケースがあります。

新登録結核患者に占める外国出生者の年次推移



結核は感染しただけでは、他の人にうつすことはありません。
病気が悪化すると「せき」や「たん」の中に結核菌が含まれるようになり、人にうつす状態になります。重症化を防ぐだけでなく、周囲への感染拡大を防ぐためにも早期発見・早期治療が大切です。

早期発見のために大切なこと

☑症状がある場合の早期受診

☑年に1回、胸部X線検査の実施

《詳しい内容は裏面へ》

結核ってどんな病気？



シールぼうやとシールちゃん

症状

結核を発病すると、せきやたん、発熱など風邪によく似た症状が出ます。高齢者は発病しても特徴的な症状がないこともあり、受診や診断が遅れてしまうことがあります。

◀結核が疑われる症状▶

- せきやたんが2週間以上続く
- 体がだるい
- 食欲低下
- 体重減少
- 微熱



感染経路

肺結核を発病している人が、せきやくしゃみをするにより、空気中に飛び散った結核菌を周りの人が吸い込むことで感染します。

水分を失い軽くなる

(その大きさは数ミクロン)



感染してもすべての人が発病するわけではありません。通常は免疫力が結核菌の増殖を抑え込みますが、加齢や病気などで免疫力が落ちて増殖を抑えきれなくなると、結核を発病することがあります。

治療

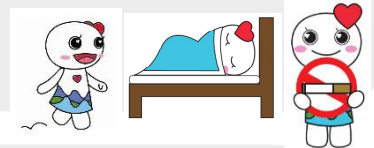
結核と診断されても、複数の薬を標準的には6か月～9か月間毎日きちんと飲めば治ります。

結核を予防するために

健康的な生活で免疫力を高めることが大切です。以下のことを心がけましょう。

- バランスのいい食事
- 十分な睡眠、休息
- 適度な運動
- ストレスをためない
- タバコを吸わない

1歳未満の子どもは、BCG接種により発病予防できます。



結核の早期発見・早期治療のために

定期的に健康診断を受けましょう

症状がなくても、胸部エックス線検査で結核が発見されることがあります。早期発見のために、年に1回、胸部エックス線検査を受けることが大切です。

職場の健康診断や市が行う胸部健康診断等で定期的に胸部エックス線検査を受けましょう。

また、健診の結果、精密検査が必要な場合は早急に受診しましょう。

症状があれば早めに受診しましょう



せき、たん、微熱、体がだるい、急に体重が減ったなどの症状が2週間以上続く場合は、できるだけ早く医療機関を受診しましょう。

結核・感染症に関するお問い合わせ

下関市立下関保健所 保健医療政策課 感染症対策係 ☎083-231-1530